

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	コロナ禍で困窮する退居者への支援
資金分配団体名:	公益社団法人 ユニバーサル志縁センター
実行団体名:	社会福祉法人子供の家 自立援助ホームあすなる荘
実施時期:	2021年6月～2022年 2月
事業対象地域:	全国
事業対象者:	あすなる荘入居者、退居者とその家族

Version 3.2

日付: 2022年3月28日

I. 事業概要

事業実施概要	<p>1 コロナ禍で困窮する退居者への支援。食料を送付することにより相談のきっかけを作り相談しやすい環境を作る。具体的な相談の折にはその都度必要な関係機関につないだり一緒に手続きを行ったり直接的な支援間接的な支援含めて行う。夏休み前と年末年始に送付用食料を購入し食料を送付した。昨年は本人と確実に連絡とれている人のみに送付したが今年度夏は住所がわかっている実家にも送付した親御さんより連絡をいただき本人と連絡が取れ、12月からは本人宅に送ることができたり。親御さんよりお礼の連絡と本人の近況を教えていただいたりその後親御さんからの相談が来るようになったなどのつながりが増えた。</p> <p>2 ボランティアをさせていただいているお店などにお願ひし体験就労をさせてもらい自己資金より生活応援金を体験者に支出する。体験就労先を開拓し、希望者にあった体験先を紹介できたかと考えていたがコロナの流行で受け入れが難しい機関が多かった。体験就労を希望する人が配慮が必要な人が多かったので本人の希望を聞いてから対応していただいけそうな体験先を探す方針に転換した。</p> <p>3 退居者が居住している地域の公的機関と連絡を密にし協力して支援にあたった。民間機関からの情報を退居者に仲介空いたり協力して支援にあたった。</p> <p>4 就労、進学、資格取得相談など実現のための計画と一緒に考えたり、法人の基金を使って具体的な支援を行ったりした。</p>
--------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>1食料送付による効果は支援回数の増加や支援の多角化につながったと考える。</p> <p>2就労体験について、体験が将来の展望につながった人もいたが、直前でキャンセルしてしまうケースもあり。就労していない期間が長い人や、就労経験が全くない人など、個々のニーズに合わせて再構築していく必要があると考える。</p> <p>3公的機関や民間機関との連携により入居者、退居者の生活の向上につながる支援が行えたと考える。</p> <p>4食料支援や、他機関からの情報提供をきっかけに就労についてや進学、資格取得などの相談につながったケースが多かった。来年度の専門学校進学につながったケースもあった。</p>
-------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）（事業計画から転記）	④指標（事業計画から転記）	⑤目標値・目標状態（事業計画から転記）	⑥結果(定量化できるものは%も記載、最大100%)	⑦考察
その他	その他	①退居者があすなる荘に相談できる	①声かけ・相談・対応の為の連絡調整・LINE・メール・手紙・電話の回数	①450回	①694回（100%）	食料送付や他機関からの情報提供をきっかけに相談が増えた。
その他	その他	②様々な機関とつながり生活の幅が広がる	②関係機関との連絡調整の回数	②90回	②134回（100%）	公的機関との連携により埼葛環境の改善や退居者の子どもの安全などにつながった。民間団体の助成金や支援などを仲介することで退居者の生活改善につながった。あすなる荘への相談も増えた。
求職者	その他	③体験就労などの支援により就労につながる	③電話営業する企業数・訪問した企業数・開拓した企業数・体験就労件数・就労件数	③電話営業・訪問した企業数 50 件 体験就労人数 8 人	③電話営業・訪問した企業数 10 件（20%） 体験就労人数 2人（25%） 調整したが直前キャンセルしたケース 2人	コロナの影響もあり体験先の開拓が難しかった。体験希望者のニーズのきめ細かい把握が必要だった。
その他	その他	④安定的な仕事を得ることが出来る	④就労相談回数・就学相談回数（①に含まれる）	④45回 目標状態 若者の孤立した状態が改善される。安定した生活を送っている。	④63回（100%）	進学や資格取得の相談が多かった。コロナ禍で不安定なアルバイトの仕事を続けていく事への不安もであるのではと考える。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況（事業計画から転記）	入居者、退居者が現在の状況より改善された生活を送っていること。例えば今無職の者が仕事を見つけ働いている、支援することによってさまざまな機関とつながり生活の幅が広がる。困窮した状態が改善されている等。
考察等	あすなる荘からの支援だけでなく他機関との連携により多角的な支援につながった。NPO法人の情報を伝え助成金や支援物資を受け取ることでコロナ禍での収入源を切り切ることができたり、様々な支援者となつたり、肯定的なかかわりをしていただくことで退居者の自信につながった事例が多かった。現状としてまだ支援が必要な状態の方もいるので助成が涉猟した後も継続的に支援を行っていく予定である。

V. 活動

活動	進捗	概要
食料送付することにより相談のきっかけを作り相談しやすい環境を作る	計画通り	食料を送付することで住所の把握、近況確認につながっている。昨年度より相談頻度が増えた人が多い。ご支援頂いたことで送付件数を増やし、本人と連絡が取れていない人の実家にも送付したところ親御さんより連絡をいただき本人と連絡が取れ、12月からは本人宅に送ることができたり。親御さんよりお礼の連絡と本人の近況を教えていただいたりその後親御さんからの相談が来るようになったなどのつながりが増えた。
民間の支援団体への仲介、連携をして支援する。退居者それぞれが住んでいる地域のサービスへと繋げる	計画通り	民間機関からの情報を退居者に伝えることで連絡を取るきっかけになり具体的な相談につながったケースも多かった。生活保護担当者と連携しての支援、保健師や子家センとの情報共有等、退居者と退居者の子どもへの支援を行った。
ボランティアとして受け入れていただいているカフェやNPO団体へお願いして1日2-3時間就労体験をさせていただく。	遅延あり	カフェ、老人ホーム、地域のNPO法人、保護猫保護犬保護団体等受け入れていただく先を探したが実際に利用したのは2名だった。積極的に参加したいと希望していたが見学や面談をしていくうちに気持ちが変わり、直前にキャンセルしてしまったことがあった。
就労支援員を増員し、体験先を拡大する。	遅延あり	前半コロナの流行もあり、受け入れ先を見つけることが難しかった。体験希望者が個々に配慮が必要な人も多く受け入れが難しいところもあった。
公的な就労訓練や資格取得に必要な就学相談・就労相談・助成金の相談。情報提供などを行う	計画通り	食料支援や、他機関からの情報提供をきっかけに就労についてや進学、資格取得などの相談につながったケースが多かった。専門人材育成訓練や求職者支援訓練、大学、専門学校の選定に関する相談、受験勉強を一緒に行う等様々な相談があった。来年度の専門学校進学につながったケースもあった。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	
---------------------	--

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	食料支援や他機関との連携による支援で環境に変化がみられているケースが多いと考える。コロナ禍でより困窮した状態の方が多かったが、ころながおさまっても支援が必要な方は多いと考える。引き続き今回実施した内容の支援を継続していく必要があると考える。
-----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
市役所生活保護担当部署	支援のための生活保護担当者との情報共有。情報を共有しお互いの分担を決めて支援にあたることで退居者の安定につながっている。
各自治体子ども家庭支援センター	退居者の子どもの為の支援。子育て相談、情報共有・カンファレンス参加等。退居者（親）への相談支援や子ども絵の支援など連携して行うことで虐待防止や退居者の精神的な安定につながっている。
就労支援を行うNPO法人	就労支援事業利用職場との連絡調整、職場、担当者と3社での情報共有等本人が継続するための支援を一緒に行ってくれている。職場との齟齬があった時に調整していただいたり、情報を共有することで仕事の継続につながっている。
社会的養護退居者支援NPO法人	退居者への金銭的な支援や物資提供の支援の情報を提供していただいている。実際に利用させていただいて助けられている方も多くいる。またその情報を退居者へ伝えることがきっかけであすなろ荘への相談につながることが多く支援につながったケースが多かった。
地域の社会福祉士NPO法人	1 情報共有や連携して退居者支援を行うことで退居者の生活環境の向上につながっている。2 就労体験で小学生との運動ボランティアの体験をさせていただいた。奨学生と一緒にバスケットボールを行う中で奨学生が楽しめるように配慮したり、自分のプレイを褒められるなど嬉しい体験をしたり、貴重な体験をさせていただいた。
地域のオーガニックカフェ	体験就労先としてご協力いただく予定だったが体験は当日キャンセルしてしまった。しかしその後物資の支援をしてくださったり、お年玉を下さるなど他の入居者への支援にもつながった。お年玉やプレゼントを貰う習慣のない入居者が多いので貴重な体験につながった。職員以外にも応援してくれる人がいるんだねと新しい発見にもつながった。
地域の保護猫、保護犬保護団体	体験朱老先としてご協力いただいた。動物にかかわる仕事仕事がしたいと考えていた体験者が体験させていただくことで専門学校に行きたいそのためには高校に入学卒業をしたいなど具体的な将来設計につながった。

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	5,051,042	4,289,319	84.9%
	管理的経費	923,958	923,958	100.0%
合計		5,975,000	5,213,277	87.3%

補足説明	
------	--

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	なし
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	なし
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	退居者送付用の箱にシールを貼った。
4.報告書等	後日事業報告書へ

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	整備中	給与規定を5月末公開。コンプライアンスに関する規定は検討中。
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。		
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	いいえ	給与規定を5月末公開。他規定類は整備後公開を検討する予定。
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	いいえ	現在の体制では設置が難しいため
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	現在検討中
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査	
	<input checked="" type="checkbox"/> 内部監査	
	<input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	JANPIAの窓口を利用